

## Work on Life はたらくために、大切なことを。

## 不妊治療の保険適用化



2022年4月から不妊治療の保険適用がスタートしました。何が保険治療になったの？ 実際どれくらいの負担になるの？ こういったご相談も増えています。妊活中の方はもちろん、いつかお子さんを授かりたいと思っておられる方、またそういった妊活中の方と一緒に働く方に、知っておいていただきたい概要とポイントをご紹介します。

## 保険適用される不妊治療とは？

ついに始まった不妊治療における保険診療。実際にどんな治療が保険適用となり、その値段はどれくらいかを一部ご紹介しましょう。

- ① タイミング法：一般不妊治療管理料 750円（3ヶ月に1回）＋薬品代
- ② 人工授精：5,460円（1回につき）
- ③ 採卵術：20,400円（2-5個採卵した場合）
- ④ 体外受精：12,600円（1回につき）＋ 胚移植 22,500円～36,000円
- ⑤ 顕微授精：14,400円（1個につき）＋ 胚移植 22,500円～36,000円

自費診療の場合、④⑤は25万～60万円ほどかかっていたことを考えると、かなり負担額は小さくなったのがご理解いただけるかと思います。また保険診療での治療にはいくつか条件があります。

- ① 治療開始時の女性の年齢が43歳未満であること（男性側の年齢は問われません）
- ② 子ども1人につき最大6回まで保険適用での治療が受けられる
- ③ 2022年3月まで施行されていた助成金はなくなる（お住まいの自治体に詳細は確認しましょう）

＼保険適用された場合でも、クリニックによって諸費用がかかる場合が多いので、直接聞いてみるとBetterです！／

## 知っておきたい保険診療での変更ポイント

保険適用になったことで、経済的負担も減ったし良いことづくし！と思われる方もおられるかもしれませんが、費用面以外にも変更になったことがあります。治療を受けられる方の年齢や体質によっては、自由診療を続けたいというケースもあり、この場合混合診療が認められていない日本では、以前よりも経済的な負担は増えることになります。

## 採卵について

自由診療の場合、採卵をまとめて行い、順番に子宮内に戻すという手法が可能でしたが、保険適用での治療の場合、治療が標準化されたため、採卵した卵を戻し終わって、次の採卵を行う流れになります。

## 個性の高い治療の提供が難しい

保険診療では、治療が標準化されたことで使用する薬剤もこれまでのような個別に合わせた薬剤使用が難しくなった側面もあります。



個別のご相談は  
相談フォームへ！

CAREKEYは  
「nsgk03823」

参考：厚生労働省ホームページ

Copyright © With Midwife Inc. All Rights Reserved.

